

第 65 回

横浜能

能

替間

養老 ようろう

薬水 やくすい

観世流 梅若紀彰

和泉流 野村又三郎



能 養老(観世流)



替間 薬水(和泉流) 野村又三郎
撮影 神田佳明

平成 29 年 6 月 17 日 (土)

横浜能楽堂 午後 1 時開場 / 午後 2 時開演

【チケット料金】S 席 4,000 円 / A 席 3,500 円 / B 席 3,000 円

【チケット発売】平成 29 年 3 月 11 日 (土) 正午より (初日は電話 WEB のみ)

※ 電話・WEB 予約開始日にチケットが売り切れた場合、窓口での販売はございません。

横浜能は昭和 28 年に第 1 回が開催されて以来、半世紀にわたり市内の能楽愛好者団体である横浜能楽連盟が中心になって開催してきた催しです。横浜ゆかりの能楽師や、横浜ゆかりの演目でお送りします。

主催 / 横浜能楽連盟 横浜能楽堂(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)

お申し込み・お問い合わせ
横浜能楽堂 TEL 045-1263-3055
〒220-1004 横浜市西区紅葉ヶ丘 2-7-2

<http://www.ynt.yaf.or.jp>

雄略天皇の勅使が不思議な水の湧き出る泉が美濃国(現在の岐阜県)にあると聞き、養老の瀧までやってきます。そこで樵の親子に出会い、不思議な水について尋ねます。すると我等こそがこの養老の滝を見つけた親子であると名乗り、「養老」という名前をついた謂れを語ります。そして、「この水を飲めば活力が湧いてくる。不老不死の薬の水である。」と告げ、水の泉を案内します。さらに水の謂れ、奇瑞について述べていると、天より光があふれ、音楽が聞こえ、花が降り注いできます。

山神と楊柳観音菩薩が現れ、親孝行ゆえに滝の水が薬の水となり、養老の滝となったと舞を舞うと、泰平の御代を讃え帰っていくのでした。

養老の瀧の水の奇特について描いた世阿弥作の脇能。養老改元1300年を記念し、上演します。また、今回は「薬水」の小書(特殊演出)がつき、間狂言が替間「薬水」となります。

梅若紀彰

[うめわか きしょう]

シテ方観世流。1956年、室町時代からの歴史を誇る観世流の名門・梅若六郎家の五十五世梅若六郎の孫として生まれる。近年は「嬢捨」など能の大曲を演じ、高い評価を得る一方、他ジャンルとのコラボレーションにも意欲的に取り組む。長く梅若晋矢を名乗っていたが、2010年に二代梅若紀彰を襲名。折り目正しい芸風に、天性の華やかさを持ち合わせる。重要無形文化財総合指定保持者。横浜市在住。



野村又三郎

[のむら またさぶろう]

狂言方泉流。1971年、十三世野村又三郎信廣の長男として生まれる。野村小三郎として名古屋を拠点に活動していたが、2011年十四世野村又三郎を襲名。1997年松尾芸能賞新人賞受賞。2013年度愛知県芸術文化選奨文化賞受賞。



横浜能

シテ(樵翁・山神)	梅若 紀彰
前ツレ(樵夫)	鷹尾 章弘
後ツレ(楊柳観音菩薩)	鷹尾 維教
ワキ(勅使)	福王茂十郎
ワキツレ(従者)	福王 知登
ワキツレ(従者)	中村 宣成
アイ(祖父)	野村又三郎
アイ(祖父)	奥津健太郎
アイ(祖父)	野口 隆行
笛	松田 弘之
小鼓	吉阪 一郎
大鼓	佃 良勝
太鼓	梶谷 英樹
後見	赤瀬 雅則 小田切康陽
地謡	梅若 玄祥 松山 隆雄
	山崎 正道 井上 燎治
	伊藤 嘉章 永島 充
	土田 英貴 内藤 幸雄
狂言後見	藤波 徹 野村 信朗



[電車利用]
JR根岸線・市営地下鉄線「桜木町」駅下車徒歩15分
みなとみらい線「みなとみらい」駅下車徒歩20分
京浜急行「日ノ出町」駅下車徒歩18分
(タクシー利用は各駅共約5分)

[バス利用]
戸部1丁目下車徒歩5分(市営バス103系統)
紅葉坂バス停下車 徒歩10分
(市営バス:8, 26, 58, 89, 101, 105, 106系統 / 神奈中バス:横43, 横44, 港61系統 / 江ノ電バス:大船駅行、栗木行 / 京急バス:110系統)

※ 駐車場はございませんので、ご来場の際は電車・バスをご利用下さい。
※ 内容・出演者に変更がある場合がございます。あらかじめご了承ください。
※ 会場への飲食物の持ち込みはご遠慮下さい。

横浜能楽堂 [お申込み・お問い合わせ]
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘27-2
TEL 045-263-3055
<http://www.ynt.yaf.or.jp>